142　No.4: 人気ある「ゆるキャラ」－とちまるくんに長蛇の列－
（令和元年 6 月 25 日）

２０１１年にスタートした「ゆるキャラグランプリ」は、全国の自治体などがマスコットキャラクターとして考案した「ゆるいキャラクター」、通称「ゆるキャラ」の中から「ナンバーワン」を決定するイベントであり、初代王座は熊本県ＰＲマスコットの「くまモン」だった。

くまモンが全国の頂点に立ったことで、熊本県は一躍脚光を浴びた。日本銀行熊本支店の発表によると、観光や関連グッズの売り上げなど、１１年からの２年間で１２４４億円に上る「くまモンの経済効果」があった。この額は、ＮＨＫ大河ドラマによる経済効果を上回る規模である。

【祝賀会の様子】

ゆるキャラグランプリへのエントリー数は、１５年の１７２７体をピークに減少している。昨年は８９６体にとどまり、日本でのゆるキャラブームも一段落したといえるだろう。

しかし、ゆるキャラの魅力がなくなったわけではない。ゆるキャラには不思議な求心力がある。丸くて、大きくて、ニコニコした笑顔は、子どもたちをはじめ、多くの女性からも愛され続けている。

日本だけではなく、香港でもゆるキャラは大変な人気者だ。香港で開催するイベントには、度々「とちまるくん」を招待し、来場者との写真撮影などを行っているが、長蛇の列ができるほどである。子どもだけではなく、大人の男性も一緒に写真を撮りたがるというのも香港人の特徴だろう。

こうした中、香港の旅行会社 EGL ツアーズの３３周年記念祝賀会が５月２９日、香港コンベンション＆エキシビションセンターで開催された。日本からも多くの観光事業者などが来港し、会場は総勢２千人の出席者の熱気に包まれた。

祝賀会では、日本のゆるキャラ３３体が招待され、ステージ上で曲に合わせて踊るなどのパフォーマンスを披露した。本県からはとちまるくんが参加した。くまモンをはじめとするゆるキャラたちとコラボし、祝賀会を大いに盛り上げた。

ゆるキャラの本来の役割は、地域の一員として観光や物産などを PR し、その地域のスポークスマンとして定着することである。今はまだ、とちまるくんの香港での知名度は決して高くないが、地道な活動を続けることにより、栃木の顔として不可欠な存在になる日が来るだろう。

毛塚　隆弘(けづか　たかひろ)
栃木県香港事務所所長。
1993 年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構（ジェトロ）に出向。2017 年 4 月から現職。栃木市出身。